

様式 2

安曇野市農業農村振興計画推進委員会（第二回）会議概要

- 1 審議会名 安曇野市農業農村振興計画策定委員会（第二回）
- 2 日 時 平成28年7月21日 午前9時30分から午前11時30分まで
- 3 会 場 安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室 東
- 4 出席者 佐藤進委員、久保田敏彦委員、丸山昌則委員、中田玲子委員、渡辺共芳委員
鶴見武敏委員、浅川拓郎委員、三澤勇委員、高橋正光委員、奥智幸委員、
等々力等委員、丸山和子委員、白澤幸男委員、塩野治幸委員
- 5 市側出席者 大向部長、大竹課長、柴野課長、矢花課長補佐、高橋係長、百瀬係長、奈良澤係長、
中村係長、丸山係長、山田係長、上野課長補佐、樽沼副主幹、矢島氏、赤須主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成28年8月4日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - (1) 開会（大竹課長）
 - (2) あいさつ（佐藤委員長）
 - (3) 協議事項
 - ① 第1回推進委員会に出された意見に対する回答
 - ② その他の意見・提言
 - (4) その他
 - ① 安曇野市農業・農村振興計画に係る平成27年度実施状況の点検・評価結果(案)の提示
 - ② 今後の予定
 - (5) 閉会（大竹課長）
- 2 審議概要
 - (1) 第1回推進委員会に出された意見に対する回答（事務局より資料説明）
（委員からの意見：概要）

 農業で「稼ぐ」 ～経営する～
【経営基盤の見直し】
 - ・生産調整が平成30年以降なくなる件について、米以外の農産物も大事になると思う。市として具体的に「この作物に重点をおく」という方針を出すことも大事ではないか。
【6次産業化等の推進】
 - ・果樹に関する加工施設が安曇野市は未熟。市内で対応できるよう、施設の充実が必要。
 田園で「守る」 ～維持する～
【優良農地の保全】
 - ・平成30年以降の生産調整がなくなることにより、田園風景が今より減るのではないか。田園を保護するために条例を作るなど、何か対策が必要なのではないか。
 - ・田園風景を地域で守ることについては色々課題があると感じている。

【中山間地域の向上対策と荒廃農地対策】

- ・荒廃農地の管理について、GISシステムを取入れ、市民が情報を得やすいよう工夫すべき。
- ・荒廃している農地の把握だけでなく、地権者の今後の意向について確認すべき。農地はあるが新規就農者は土地がないというミスマッチの解消が必要。
- ・荒廃農地解消について、機械を貸し出すなど1歩も2歩も踏み込んだ対策が必要。
- ・明科天王原に続く事例が出るよう、積極的な宣伝が必要。
- ・中山間地域の田については、ポンプで水揚げする等、他より管理費をかけて維持をしている。そのような農地への補助をお願いしたい。

□ 安曇野で「生きる」 ～暮らす～

【食農教育の推進】

- ・小中学校の食農教育については、カリキュラムの柔軟性を考えて軽重をつけるべきである。また、新しいことを取入れて今までのことを切り捨てるのではなく、視点を変えて加えることが重要である。

【地下水量の保全とかん養】

- ・麦あとのたん水について、地下水保全や赤米にも有効であると感じているため事業の継続が必要である。

□ 全体を通して

- ・市とJAの連携がなぜ進歩しないのか。具体的にどのようにしたらうまくいくのか、失敗例を参考に前に進むためにも精査すべきである。なぜ駄目だったのかを検証して地道に取り組むことが必要。
- ・市とJAの連携についてはそれぞれの立場を尊重しながら進めることが重要。市農業再生協議会という組織も使って進めることが重要。
- ・様々な課題に対して「今後検討が必要」等の回答が多いが、悠長に構えていては手遅れである。市は本気で高齢化にも向き合っていないのではないか。

以上